

## 千葉県における平成 23 年春のスギ花粉量の予測

— 雄花量は昨年の 3~4 倍に増加し花粉は大飛散となる見込み —

### 1 予測の概要

千葉県農林総合研究センター森林研究所では、平成 22 年の 11 月から 12 月にかけて、県内のスギ林 45 箇所において平成 23 年春のスギ花粉量を予測するための調査を行いました。

その結果、花粉を飛散させる雄花の量は、全調査箇所では昨年より増加し、その量は昨年の 3~4 倍になると推定されました（図-1）。したがって、平成 23 年春のスギ花粉総飛散量も昨年に比べて大幅に増加し大飛散となることが予想されます。

なお、この量は調査が始まってからの 17 年間で 3 番目に多い量であり、スギ花粉が大飛散した平成 7 年、12 年と同程度の量になると予想されます。

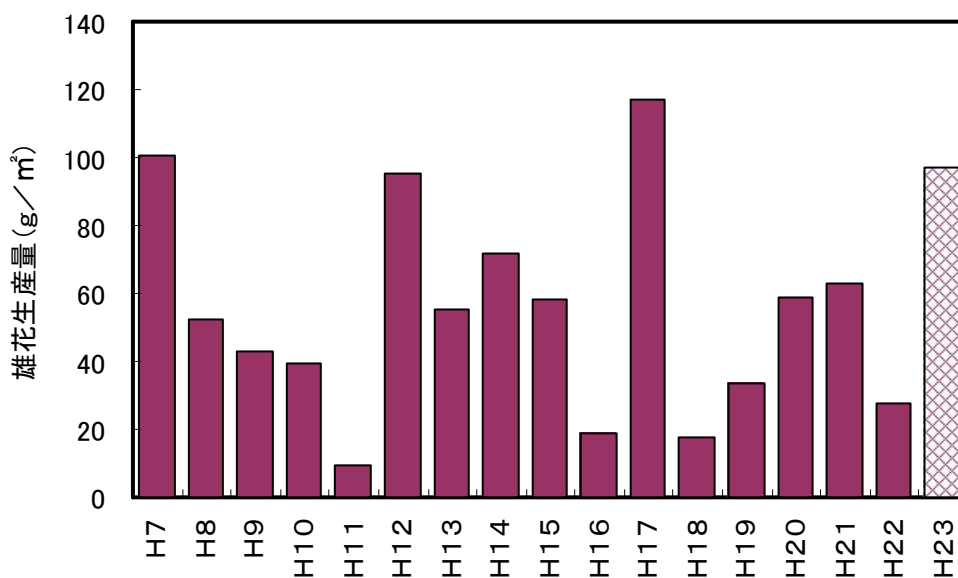
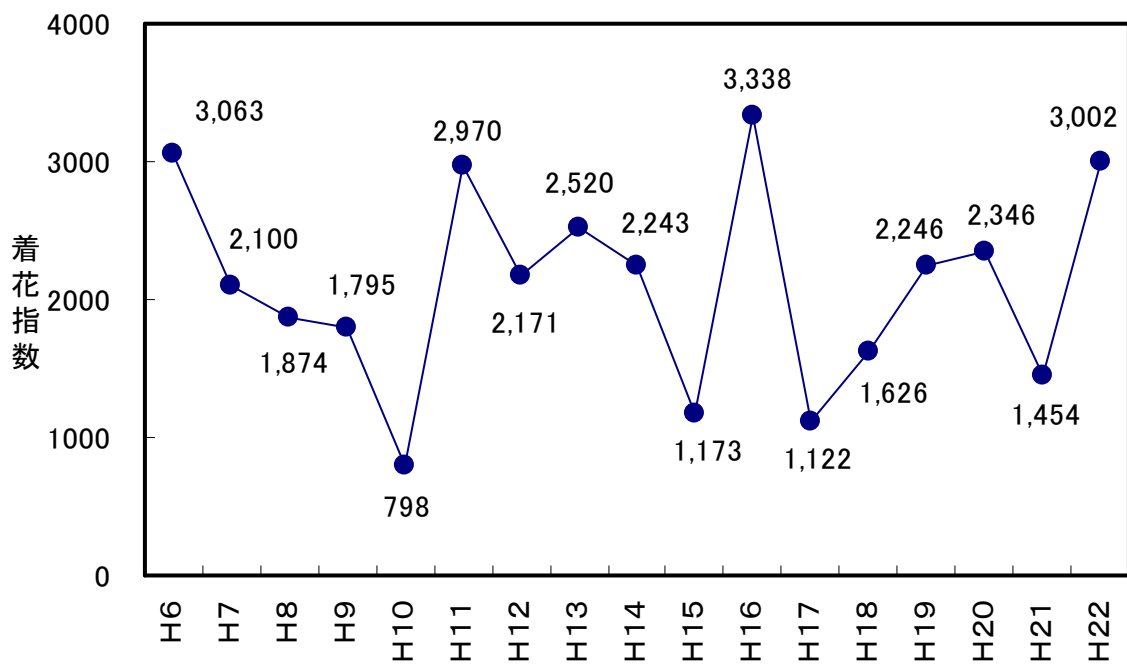


図-1 県平均雄花生産量(推定値)の変化

### 2 花粉飛散量の推定方法

花粉の総飛散量は、花粉を飛ばすスギの雄花の量から予測します。雄花の量は、県内に 45 箇所設定した調査林の着花指数により推定しています。

今回の調査では、45 箇所の調査林の平均着花指数が、昨年の 1,454 に対して 3,002 と約 2 倍に増加しました（図-2）。この平均着花指数から、図-3 のスギ林における雄花生産量との関係を使って雄花生産量を計算すると、平成 23 年の雄花生産量は  $97 \text{ g/m}^2$ （表-1、図-1）と推定されます。この値は、平成 22 年の雄花生産量の推定値 ( $27 \text{ g/m}^2$ ) の 3.6 倍にあたり、平成 23 年春の花粉飛散量は昨年の 3~4 倍に増加すると推定されました。



調査年(花粉飛散は翌年)

図-2 着花指数の変化

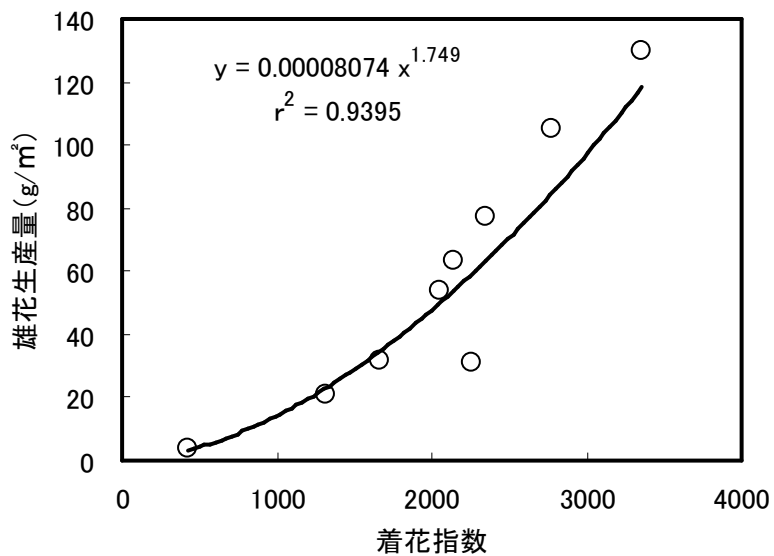


図-3 木更津市の調査林における着花指数と雄花生産量の関係(H7~H15)

表一 県平均着花指数から推定した雄花生産量(乾燥重量, g/m<sup>2</sup>)

	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
県平均着花指数	3,063	2,100	1,874	1,795	798	2,970	2,171	2,520	2,243	1,173
推定雄花生産量	101	52	43	40	10	95	55	72	58	19

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
県平均着花指数	3,338	1,122	1,626	2,246	2,346	1,454	3,002
推定雄花生産量	117	17	33	59	63	27	97

### 3 スギ花粉症の方への注意

- ・ スギ花粉の飛散開始時期は、その年の気象条件によって変わるので、飛散開始に関する情報に注意し、適切な時期に医療機関を受診してください。
- ・ 日々花粉飛散量はその日の気象条件によって変化しますので、日々の飛散情報に注意してください。
- ・ スギ林の近くでは、局所的に飛散する花粉量が多くなる場合がありますので注意してください。
- ・ 大飛散が予想されるため、飛散時期はなるべく外出を避け、できるだけ花粉と接触しないように注意してください。
- ・ 花粉症ではない方も、多量の花粉に接触すると花粉症を発症する可能性があるため、できるだけ花粉と接触しないように注意してください。

## 4 用語解説

### 着花指数

スギ林内の40本のスギの上部に着生する雄花を双眼鏡で観察し、雄花量をA～Fの6段階に評価し、各ランクの本数に重み付けの点数(100,60,50,40,5,0)を掛けて合計したもので、0～4000の値をとります。(独)森林総合研究所の横山ら(1992)により考案されたもので、雄花(花粉)生産量との相関が高いことが知られています。

### 雄花生産量

スギ林 1 平方メートルあたりで生産される雄花の乾燥重量です。スギ林内に雄花トラップを設置し、花粉放出後に落下する雄花を捕捉して測定します。

千葉県農林総合研究センター森林研究所  
289-1223 山武市埴谷 1,887-1  
TEL.0475-88-0505 FAX.0475-88-0286

<http://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/shinrin.html>